

見学会と総会を6月2日に堀家住宅で開催 堀家見学会と総会に参加して

中東 育代

去る2日(日)、1時半より寺田集落にある堀家にて総会が開かれた。時々雨が降るあいにくの天気だったが、夕方からの例会に来られないからと遠くからもお運びいただいた。実は私も楽しみにしていた1人である。

大きな長屋門をくぐり、並んで建つ乾蔵(いぬいぐら)にお邪魔した。入ってすぐ正面右手にひと際目を引くオブジェ?が有る。大小というより、そのものの形を模したという方が正確なのかも知れないが、水度神社の御旅所に飾られた神饌の栗櫃(くりやか)だ。何年か前に森澤氏が復元してくれた小振りな物を見たが(それでも十分大きい)、現在これを作れと言っても既に材料さえ揃わないだろう。機会があれば見てもらいたいものの一つだ。

さて、今年の総会は快く会場をお貸しくださった堀家ご当主の案内と城陽市教育委員会の浅井さんのお話をはじめ、蔵に置いてあるピアノをお借りして唱歌の合唱がある。蔵の中は展示場になっていて、医院をしていた頃の薬研や秤・仙洞御料の庄屋をしていた頃の絵図や文書がガラスケースに納められていた。「四季耕作図巻(しきこうさくずかん)」など稲作等の場面が描かれているものも興味深い。今の様に農業から離れて久しい若い人には何の作業か解らないかもしれないが…。ちなみに邪魔しているこの乾蔵は、もとは米蔵だったそうだ。堀家住宅は、近世の伝統的な農家建築の形式を留めるものとして7棟が国登録文化財に登録されている(平成23年7月25日)。

寺田村と堀家についてお話を聞いた後、外に出て各建物の特徴を説明してもらったのだが(江



堀家住宅 乾蔵の入り口

戸時代から明治・昭和にかけての建築が一度に見られる)、雨がぱらついてきた。1棟ごとの詳しい話は手元に配られた資料参照として、急いで記念撮影。長屋門にかけられている竜吐水や母屋の籠を見せてもらった。雨が少し強くなってきたので浅井氏と別れて(お忙しい中、休日にもかかわらずありがとうございます)、まだ小降りの内に慌てて会場にもどる。後に資料を見ると、当日生の説明を聞けなかったのが悔やまれた。